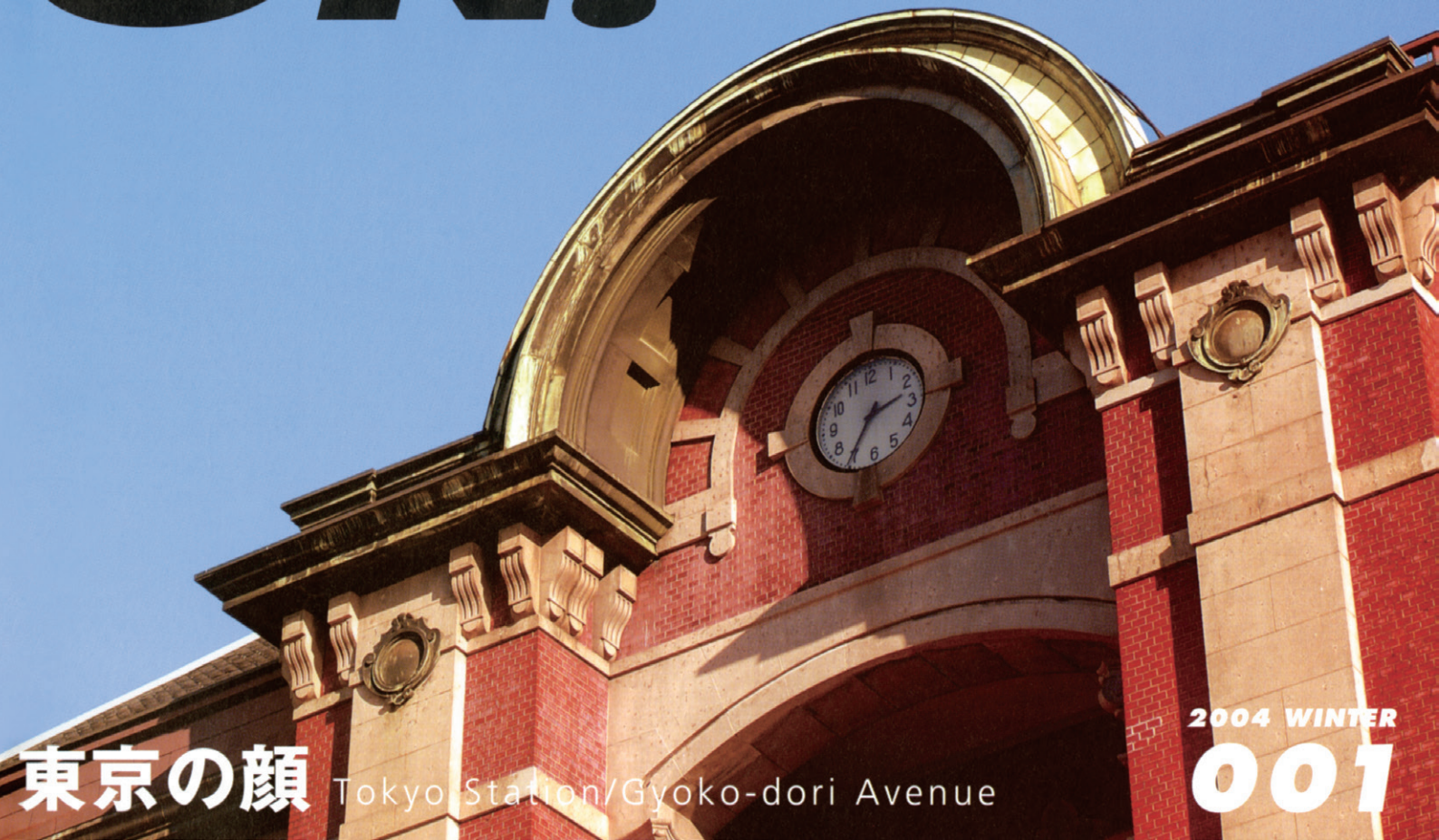


ON!

Old but New

伝統を残しながら、変わり続ける街
大手町・丸の内・有楽町の
街づくりを発信する情報誌



東京の顔

Tokyo Station/Gyoko-dori Avenue

2004 WINTER

001

この街は変わる。
この街は変わらない。

大手町・丸の内・有楽町エリアで、いま進んでいる大規模な都市再開発。
「丸ビル」のリニューアルが大きな話題を呼んだのも、まだ記憶に新しい。
この街は、江戸が東京と名前を変えた頃から、つねに日本の経済や文化の中心。
かつては、「一丁ロンドン」、「一丁ニューヨーク」と呼ばれ、東京っ子の心を奪ってきた。
その当時の面影は、東京駅丸の内駅舎の赤煉瓦に偲ぶことができる。
ここは、日本の顔としての歴史と文化の重さと華やかな気品で彩られているのだ。
このエリアの再開発のコンセプトは「いいものを残し、その精神を受け継ぎながら、街を未来へ変えていく」こと。
「変わる」けれども、「変わらない」。それがこの街なのだ。

「ONI」は、大手町・丸の内・有楽町の街づくりを発信する情報誌。
街づくりのコンセプト“Old but New”から名づけた。
創刊号では「変わる街、変わらない街」大・丸・有の象徴である東京駅と行幸通りをとりあげる。



東京 Tokyo Station 駅

この街が産声を上げたのは19世紀末から20世紀のはじめにかけて。最初は馬場先通り沿いに赤煉瓦の洋館が建ち並ぶ一丁ロンドンが誕生した。その後、1914年(大正3年)に東京駅が完成。建築界の重鎮であった辰野金吾が設計した東京駅は、当時3階建てで南北に華麗なドームを持っていた。この駅が完成したことで街の中心は、東京駅方面



当初の設計案。和洋折衷の奇妙な姿を辰野は「赤毛の島田監」と酷評した。



創建当時の東京駅。2010年には、この姿が甦る。

100年の時を超えて、赤煉瓦駅舎が甦る。

に移る。1923年(大正12年)には駅前に、丸ビルこと丸の内ビルディングが完成。やがて行幸通りが皇居まで延び、丸の内は日本の顔へと発展する。東京駅は、この街の象徴であり、街づくりの原動力。その東京駅が、今また生まれ変わろうとしている。辰野金吾が建てた当時の姿に復元され、新しい街づくりの中心として甦る。次の時代へ、丸の内は新しい一歩を踏み出そうとしている。

C O L U M N S * T o k y o S t a t i o n

まさに東京の隠れ家です。

東京ステーションホテルは、多くの文豪たちに愛されてきたホテル。ノーベル文学賞を受賞した川端康成も317号室で新聞小説「女であること」を執筆しました。ホテル内のバー「カメリア」は、丸の内を代表するクラシックバー。オリジナル・カクテルも豊富。窓からはプラットホームの雑踏が一望できます。

東京ステーションホテル
■宿泊予約
TEL:03-3231-2511
<http://www.tshl.co.jp>



手前は赤煉瓦をイメージしたオリジナル・カクテル「東京ST(ステーション)」

駅にアートがあってもいいんじゃない。



東京ステーションギャラリー
TEL:03-3212-2485 <http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

駅の中のスペイン風バルを企画したのは、入社2年目の小河真智子さんでした。

スペインの街角にあるバル(BAR)は、たくさんの人が気軽に立ち寄り、くつろいでいく場所。東京駅に、このスペイン風バルが誕生した。発案者の小河さんは中学・高校の4年間をマドリッドに在住。JR東日本入社後すぐに社内ベンチャー公募にアイデアを出したのがきっかけで、夢が現実のものとなった。「スペインのバルをそのまま真似るのではなく、その機能を日本風にアレンジしました。東京駅は、新幹線があり、在来線があり、一日中たくさんの人が集まる特別な駅。誰もがくつろげる場所にできなかったんです。いちばんの売りは、バル風の立ち飲みコーナー。列車の時間を待つのにぴったりです。女性でも気軽に立ち寄れるオープンな雰囲気になりました。」(小河さん)

東京駅が変わるのは外観だけではない。駅の中にも新しい空気が生まれている。

バル&レストラン アメボテ東京/東京駅 中央地下通路 銀の鈴橋
TEL:03-3216-3056



バルで語る小河さん



コンシェルジェがいるのはホテルだけじゃない。

東京駅にもコンシェルジェがいるのをご存じですか? ステーションコンシェルジェは、乗り換え案内はもちろん、地下街の各店舗の情報だけでなく、日本全国の観光情報まで、どんなことでも相談ののってくれます。東京のお土産に最適な老舗の和菓子屋さん探しもOK。

ステーションコンシェルジェ東京/東京駅1階中央通路と南通路の間 MediaCourt(メディアコート)内
営業時間 10:00~18:30 <http://www.tokyoinfo.com/mediacourt/concierge/index.htm>

行幸 Gyoko-dori Avenue 通り

都市空間は、劇場になる。

行幸通りは、東京駅と皇居を結ぶ道幅73mの大通り。通りの名前の「行幸」とは、天皇陛下がお出かけになられることを意味する。この広小路を舞台に、2001年にイタリア年のオープニングイベントである「空の祝祭」が開催された。都市空間を劇場に見立てた画期的なイベント。風、水、火、大地をモチーフとした数々の寓意的世界が華やかな演出で表現された。人々が集い、人々が感動に出逢える街をめざして、いまこども変わりつつある。



行幸通りは、東京ではめずらしい広大な儀礼的空間でもある。中央部分は普段使われることがなく、皇室の公式行事や新任大使の信任状奉呈式のために東京駅を出発し皇居へ向かう馬車列が優雅に走り抜ける。

←「空の祝祭」は、イタリアのアートディレクター ヴァレリオ・フェスティ氏と作品プロデューサー今岡寛和氏によるルネサンス時代の理想世界をモチーフとした幻想的で壮大な祝祭。

INTERVIEW * Akira Onozuka



丸の内・行幸通りに面した郵船ビル1階に、ショップ"CABANE de ZUCCA"と"Dragonfly CAFE"を構えるZUCCA。そのデザイナーである小野塚秋良氏にお話を伺いました。

若い頃から、ここに店を出したかった。

なんで、この地に商業的要素が入り込んでこないんだろう、と若い頃からずっと思っていたんですね。この辺りって、すごくいい街だなあ、ここに店を出したいなあ、と。流行ばかり追いかける商業主義に流されない街って、東京ではここくらいしかないんじゃないかなあ。我々は、ファッションの仕事の宿命として、変わらなくっちゃいけない部分と、一方で、作り手として、動じないしっかりしたもの、変わらない部分を持たなくてはいけない。そういう意味では、伝統がありながら変わり続けるこの街というのは、非常に恵まれた環境だと思いますね。我々は、出店計画をする場合、どんな街か、隣にどんな店があるか、というのはすごく重要なんですが、その点でもここはいいですね。

ぼくは、ここに住んでみたいね。

ただし、きれいな街づくり、っていうのもいいんだけど、この街には少し空虚なものを感じることがある。たとえば、地域密着型の商店街が裏通りに、非常にいいカタチで存在するとか、そういうことがあればいいね。じゃ、その背景に何が必要かといえば、「人が住む空間」が必要なんです。パリの街がなんであんなに風情があるかという、商店街の上は全部アパートで、人がたくさん住んでいて、日曜ともなればマルシェ(市場)になる。だから面白いんですね。このきれいな街を壊さないで、生活感を出す。ファッションの世界でも今は、生活感をどう表現するか、というのが、重要なんです。東京駅の中にあるホテルや、施設を活用すると、いろんな住むためのアイデアが出てくると思う。人が暮らせば、この街はもっと面白くなると思いますよ。ぼくだったら、ここに住んでみたいね。便利だもん、だって。

*このインタビューの詳細は、協議会のホームページに掲載されています。ぜひご覧ください。



小野塚秋良 Akira Onozuka
ファッションブランドZUCCAデザイナー。89年、レディスブランド"ZUCCA(ズッカ)"をパリで発表。数々のコレクションを発表する一方、イベントの演出など幅広く活躍する。99年11月、"CABANE de ZUCCA 丸の内"と"Dragonfly CAFE丸の内"をオープン。

CABANE de ZUCCA 丸の内
郵船ビルディング1F TEL:03-5220-2502
営業時間 11:00~20:00 (不定休)
<http://www.a-net.com/brand5.html>

「新丸ビル」の建て替えがいよいよ始まる。

建て替え後は延床面積約195,000m²、最高高さ約198mの超高層ビルに生まれかわる。快適かつ高規格なオフィス環境を備えた、国際ビジネスセンターに相応しい業務機能のみならず、「丸ビル」同様、多様な機能が導入される予定だ。よりグローバルな視点から都市景観を検討するため、コンセプトデザインに英国人建築家のマイケル・ホブキンズ卿を起用し、丸の内の歴史との調和を考

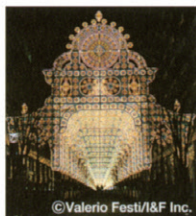


慮しつつ新たな感性を取り入れた建築となる。平成19年度に予定されているこのビルの完成が、この街にさらなる魅力をもたらすことになるだろう。

完成予想図

第5回「東京ミレナリオ2003」に284万6千人が来場。

東京の年末の風物詩となった東京ミレナリオが昨年12月24日から今年の1月1日まで丸の内通りを中心に開催された。2003年は「江戸開府400年」にあたり、第5回「東京ミレナリオ2003」はその最後を飾る華麗なフィナーレ。展示された光の彫像は、江戸時代から引き継がれている東京の代表的な伝統工芸である「江戸切子」をモチーフにしたもの。その美しさに284万6千人の人が息をのんだ。



©Valerio Festi/I&F Inc.

無料巡回バス「丸の内シャトル」にリアルタイム位置情報検索システムを導入。

「丸の内シャトル」は、人と環境に優しい次世代電気バス。就業者や来街者のために無料で東京駅周辺を巡回している。このバス

に携帯電話やパソコンでバスの位置を知るシステムが導入された。インターネットに接続できる携帯電話なら後記のサイトにアクセスすれば、バスがどこにいるか一目瞭然。待ち時間のいらいらから解消される。また、バス停にはURLの他、サイトへ誘導するバーコードも表示。バーコード読み取り機能付きの携帯電話なら、すぐにサイトにアクセスでき、バスの位置がわかる。ますます便利になった「丸の内シャトル」をぜひご利用ください。



丸の内シャトルバスナビシステム
<http://www.busnavi.net/marunouchi/>



発行：大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
 大手町ビル635区
 TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
 ホームページ <http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/>

●創刊にあたり

「ON!」は、「街づくりを優しく、柔らかく」をテーマとした、街づくりを紹介する新しいスタイルの小冊子です。都市開発担当者や街づくり専門家を読者とする街づくり専門誌とは少々趣を異にし、この街の動きや、逆に動かない“こと”、

“もの”、埋もれてしまった街づくり秘話をこれから定期的にお届けしたいと思っています。なお、ご意見ご要望等ありましたら、下記までお寄せいただければ幸いです。(編集部一同)
 e-mail: tcc@lares.dti.ne.jp